

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■121■

東京の友人から、前橋市内を案内してほしいと連絡があった。「前橋は現代アートとフライランスロピー（企業の慈善事業）、地域活性化で日本では最も進んだ取り組みをしている」とのこと。アートにはなじみがない私だが、住んでいる街を日本一と褒められるのはうれしい。喜んで案内役を引き受けることにした。

当日、JR前橋駅で待ち合わせて最初に向かったのは臨江閣。広々とした建物や庭園の素晴らしさに加えて、友人が驚いたのは本館が地元の有志や企業の寄付によって建

前橋でアート巡り

「民」の活力 街活性化

てられたこと。私も普段から、前橋では街づくりを行政任せにせず民間が積極的に関与していると感じていたので、「その

近さを感じていた。

県庁で山の景色を眺めながらランチを楽しんだ後は千代田町の「つどいわ」へ。ここは民間が所

有する施設だが、広場だけでなく建物内部も自由に利用することができ、友人のテーマの一つである地域活性化を民間が取り組んでいる事例と

展が開催され、人工知能（AI）技術を使った映像作品もあり、デジタルとアートの融合が進んでいることに驚かされた。

記念展の作品は中央通り商店街など屋外にも展示されていた。それらを眺めながら散策したときに、馬場川沿いの道路工事が民間の寄付金で行われた。週末に前橋の街を散策するのは久しぶりだった。友人のおかげで、現代アートを楽しんだだけでなく

気分は明治の頃からあったんだね」と説明した。

して紹介した。

れていることを説明する

「民間主導の街づくり」の姿を改めて感じることができた。この活力が前

次に向かったのは県庁32階。素晴らしい展望だけがなく、官民共創スペースのNETSUGEN

（ネツゲン）や31階のキツチンを備えた交流スペースのGINGHAM

（ギンガム）も見学した。友人は「公」と「民」の

橋へ。開館10周年の記念」と驚いていた。これもと思う。



肥後秀明（ひご・ひであき）

1969年生ま

れ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本

銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを
経て2022年4月から現職。